



日本プライマリ・ケア連合学会  
四国ブロック支部



発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田  
事務局 〒761-2103  
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1  
綾川町国民健康保険陶病院気付  
副支部長/事務局長 大原昌樹・森田宛  
Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795  
E-mail oharamasaki@gmail.com

★1 第18回日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会/第25回四国地域医学研究会 合同学術集会  
大会長 山口 治隆 (徳島大学大学院総合診療医学分野)

平成30年11月17日・18日、徳島大学 藤井節郎記念医科学センター(徳島大学蔵本キャンパス内)において四国地方会を開催させていただきました。副会長は四国地域医学研究会から川下陽一郎先生(徳島県立中央病院救命救急センター・外科)にご担当いただきました。心配された雨も降ることなく暖かい学会日和でした。2日間で計102名の方々にご参加いただきました。ご参加くださいました皆様ありがとうございました。

開会式では、阿波谷支部長から長年四国ブロック副支部長・事務局長を務めていただいております陶病院院長 大原昌樹先生に支部功労賞が授与されました。



大会長講演で総合診療医の魅力についてスピーチさせていただいた後、ひきつづいて当講座の大倉・河南先生のワークショップ:『総合診療医の診療作法「+α」の介入をしよう』を行いました。まず大倉先生から、高血圧患者さんの定期診察でよくある風景を例に、落ち着いているようにみえても、実は介入すべき健康問題が存在することがあり、機会を逃さずに疾病予防や健康増進に介入するには「おせっか医」「+αの介入」が大事であるとレクチャーされました。



続いて河南先生が神経難病の患者さんに行った実際の支援の内容を紹介しました。そのときに用いた意思伝達のための道具や装置を会場に準備し、参加者の皆様に体験していただきました。



徳島大学 藤井節郎記念医科学センター

特別講演は「優れた総合診療医の目指し方と育て方 -We Are The Medicine-」と題して、平成30年4月に国立病院機構 徳島病院院長にご就任された西野洋先生にご講演いただきました。西野先生は徳島大学第一内科より米国メイヨークリニックに留学された後、

千葉県亀田総合病院の総合診療科部長、卒業後教育委員長としてご活躍されました。メイヨークリニックもたった一人の医師が辺境の地で行った医療活動から始まり、世界的に著名な総合病院に成長したことを例にあげ、田舎であっても優れた医療を実践することは全く可能であると教えていただきました。そして、We Are



The Medicine(我々こそが薬である)、と総合診療医を目指す若い世代と私たち指導医にエールをくださいました。



懇親会は、座敷の会場でおおいに盛り上がりました。

2日目はポートフォリオ発表会から始まりました。予定を変更してメイン会場と行き来のしやすい1階ホワイエで行いました。6演題をエントリーいただき、1演題20分でご発表いただきました。座長は原穂高先生(愛媛生協病院)、大倉佳宏先生(徳島大学病院総合診療部)で、2ヶ所同時進行しました。なおポスター



は開催期間中掲示していただきました。総合診療医を目指す若い先生方や指導医の先生方にとって学ぶところの多い発表会となりました。



一般演題は学生3組を含む16演題をエントリーいただきました。座長は杉山圭三先生(愛媛県立中央病院総合診療科)、村山善紀先生(村山内科)、川上和徳先生(綾川町健康保険陶病院内科)、伊東秀樹先生(高知医療センター総合診療科)にご担当



いただきました。今年も、臨床・研究・活動報告と多方面にわたる演題をご発表いただき、活発な討議をしていただきました。座長の先生方、演者の皆様方ありがとうございました。

一般演題と同時進行で2階多目的室では、プライマリ・ケアに興味をもつ学生が結成した<四国PCs>による第3回四国プライマリ・ケア交流会が開催されました。初日のワークショップの症例をどの



のように支えるかをテーマに、近隣病院のメディカルスタッフの方々や患者さんにもご協力いただいて、多職種連携の実際を体験いただきました。



終了後に学会四国支部総会が行われている間、学生さんにはキャリアCaféで軽食をいただきながら、先輩医師や仲間と語らいのひとときを楽しんでいただきました。



2日間にわたってご参加くださいました皆様、また事前準備からお世話になった先生方、そしてスタッフの先生方、本当にありがとうございました。



## ★2 ★第 18 回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

### ★ 第 18 回日本 PC 連合学会四国支部総会で愛媛大学医学部地域医療学講座配属 1 年生の発表

「医学部 1 年生における PBL をベースとした地域医療学教育の効果および実習意欲への影響」と題して、久保 智香、西谷 瑠乃、中川 真利亜、山根 未久、山本 夏希さんが発表しました。

愛媛大学医学部では、医学部入学早期から学生の希望する研究室に所属し、実習や研究活動を通じて少人数での学習に取り組んでいます。現在、地域医療学講座には、5 年生 2 名、4 年生 1 名、2 年生 2 名、1 年生 5 名が所属し活動しており、その活動について地域医療学教育の効果および実習意欲への影響と題して発表されました。



### ★ 愛媛県出身の家庭医と病院総合医を招聘して

学生とのワークショップ開催 (2019 年 2 月 16 日 (土) 開催)

PC を目指し第一線で活躍する若手医師による熱のこもった講演とワークショップを予定。お気軽にご参加ください！

家庭医 : 奈義ファミリークリニック副所長 山内 優輔先生

病院総合医 : 東京ベイ・浦安市川医療センター : 東野 誠先生

場 所 : 愛媛大学医学部地域医療支援センター講義室

時 間 : 13 時～18 時 その後 : 懇親会

対 象 : 医療系学生、研修医、医師、医療スタッフ

### ★ PC 教育の一環として地域医療の現場から住民目線で多職種連携活動による地域包括ケアを学ぶ取り組み開催のお知らせ

昨年に続けての開催です。健康問題を持ちながら地域で生活する人々との関わりを通じて、その人の価値観やニーズを知るとともに、その人の生活を支える家族、専門職、地域住民と関わり、住み慣れた地域でその人と家族が暮し続けられるための地域包括ケアシステムの推進に向けた医療関係者の役割を体験から学んでいきます。

1. 対象 : 1 年生～3 年生の医学生と看護学生 20 名程度

2. 期間 : 2019 年 3 月 4 日～3 月 8 日

3. 場所 : 西予市立野村病院、野村保健福祉センター、野村町地域包括支援センター、西予市社会福祉協議会本所 (野村保健福祉センター)、訪問看護ステーション東宇和/サテライト野村、介護老人保健施設つくし苑 (野村病院横)、通所介護事業所野村町デイサービスセンター (特別養護老人ホーム法正園)

4. 内容 : 1) 西予市野村町の概要および医療・保健・福祉の現状について受講し、理解を深めます。各学年 1 名ずつ 3 名のグループを作り、野村病院医師の外来受診を予定している患者の中から対象者を選定し、家庭訪問および外来受診の同行を行ないます。

対象者の予定にあわせて自宅訪問またはデイサービス等に参加します。そして、その人の暮らしを体験しながら、対象者のこれまでの生活やこれからの生活に関する希望、現在の生活に関する思いを聴きとります。保健センターや地域サテライトセンターを訪問し、地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種連携・協働について学びます。

個々の健康課題から地域の生活背景を理解し、「高齢者が住み慣れた地域で生活し続けるために必要な社会資源と活用」についてワークショップを行い、地域へ貢献するための自らの考えを報告します。

### ★3 2019年度 新専攻医オリエンテーション&ポートフォリオ発表会のお知らせ

原 穂高 (愛媛生協病院 家庭医療科)

#### ★ 新専攻医オリエンテーション&ポートフォリオ発表会を開催(2019. 4. 20)

下記のように、2019年度 新専攻医オリエンテーション&ポートフォリオ発表会を行います。

日時：2019年4月20日(土)

場所：高知医療センター

内容：午前11時～ 新専攻医オリエンテーション(該当者がいなければ、なし)

午後1時半～ 専攻医ポートフォリオ発表会

オリエンテーション：対象は専門医機構の新専攻医、PC学会のVer.2.0のプログラムの新専攻医です。

ポートフォリオ発表会：現在研修中の専攻医のポートフォリオ発表会を開催いたします。専攻医のみならず、できるかぎり参加・発表していただきますようお願いいたします。

参加した専攻医たちから「交流できる貴重な機会」として喜ばれており、今回も有意義な場になると考えています。またポートフォリオ発表会につきまして、日本プライマリ・ケア連合学会の認定医・専門医更新のための単位申請を予定しています。

#### ★ 四国ブロック指導医講習会が2018年12月16日(日)に開催

四国ブロック指導医講習会が2018年12月16日(日)に開催されました。メイン講師に出雲・大曲診療所の藤原和茂先生を迎え、愛媛県立中央病院をお借りして四国ブロック支部で初の試みを無事に成功することができました。

今回の指導医講習会は初級編、全体目標は「家庭医療後期研修プログラムにおける指導医として、必要な能力を身に付ける」ことです。参加者がネームプレートを作るというアイスブレイクから始まり、講義「家庭医療後期研修プログラムで何を教えるのか?」、講義「研修医にどうやって教える?」、ロールプレイ「研修医指導の技法」、講義・グループディスカッション「ポートフォリオとそのねらい」を行いました。

25名の参加者のうちにはこのようなワークショップに慣れていない方もいたようです。もっと気を配りながら進行していこうと振り返りました。

この指導医講習会は指導医資格を取得しようと考えている方、指導医資格更新が迫っている方にとっては必須の講習会となります。もしくは、認定医・専門医更新のための単位とすることも可能です。今後、年1回、四国ブロックで開催していく予定ですので、思い当たる方は参加をお待ちしております。

四国ブロック支部より指導医養成講習会協力委員として大倉佳宏(徳島大学)、尾崎達哉(愛媛生協病院)、河南真吾(徳島県立海部病院)、原穂高(愛媛生協病院)がお手伝いいたしました。

**Assessment of “knows” and “knows how”**  
The assessment of medical undergraduates has tended to focus on the pyramid base: “knows”—ie, the straight factual recall of knowledge, and “knows how”—ie, the application of knowledge to problem-solving and decision-making. This method might be appropriate in early stages of the medical curriculum, but, as skill-teaching is more vertically integrated, careful planning of assessment formats becomes crucial. Various test formats of factual recall are available, which are easy to devise and

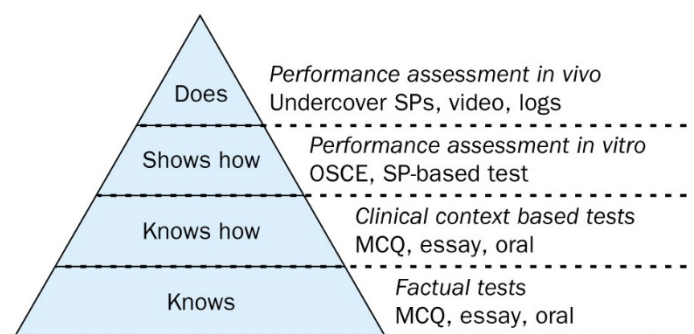


Figure 2: **Miller's pyramid of competence**

SP=simulated patients; OSCE=objective structured clinical examination; HCQ=multiple-choice questions.

THE LANCET • Vol 357 • March 24, 2001

#### ★4 「香川県地域包括ケアシステム学会」設立記念大会 1月に開催

四国ブロック支部事務局長・副支部長 大原 昌樹

香川県の保健・医療・福祉に関連する関係団体、大学等教育機関、産業界、住民組織、行政など地域包括ケアシステムに関わる関係団体・組織が集まる「香川県地域包括ケアシステム学会」を平成31年1月13日（日）高松市内で行うことになりました。それに先立ち、第2回設立準備会は、平成30年11月14日、日本医師会江澤和彦常任理事をお招きして行われました。岡山県地域包括ケアシステム学会の状況を学ぶとともに、日本医師会としての考えを伺うことができました。

1月は、東大高齢社会総合研究機構秋山弘子教授の「長寿社会のまちづくり：地域包括ケア」、鉄祐会武藤真祐理事長の「医療 ICT 化の現状と未来」の特別講演とともに、厚生労働省、経済産業省両課長の基調講演、県内の多様な立場の5名によるシンポジウムを予定しています。各市町、郡市地区医師会等の地域包括ケアシステムの推進に寄与するとともに、地域住民や産業界も含めた新しい形の地域包括ケアシステムを考えたり意見交換できる場になればと考えています。

従来、香川県では、香川県医師会が中心となり、13職能団体と県で構成される香川プライマリ・ケア研究会を行ってきましたが、これを拡充する形となります。来年度は、日本プライマリ・ケア連合学会四国地方会が香川県開催ですので、第2回香川県地域包括ケアシステム学会と一部平行して開催することを検討しています。現在、大会長や日程など調整中で、次号で紹介したいと思います。

